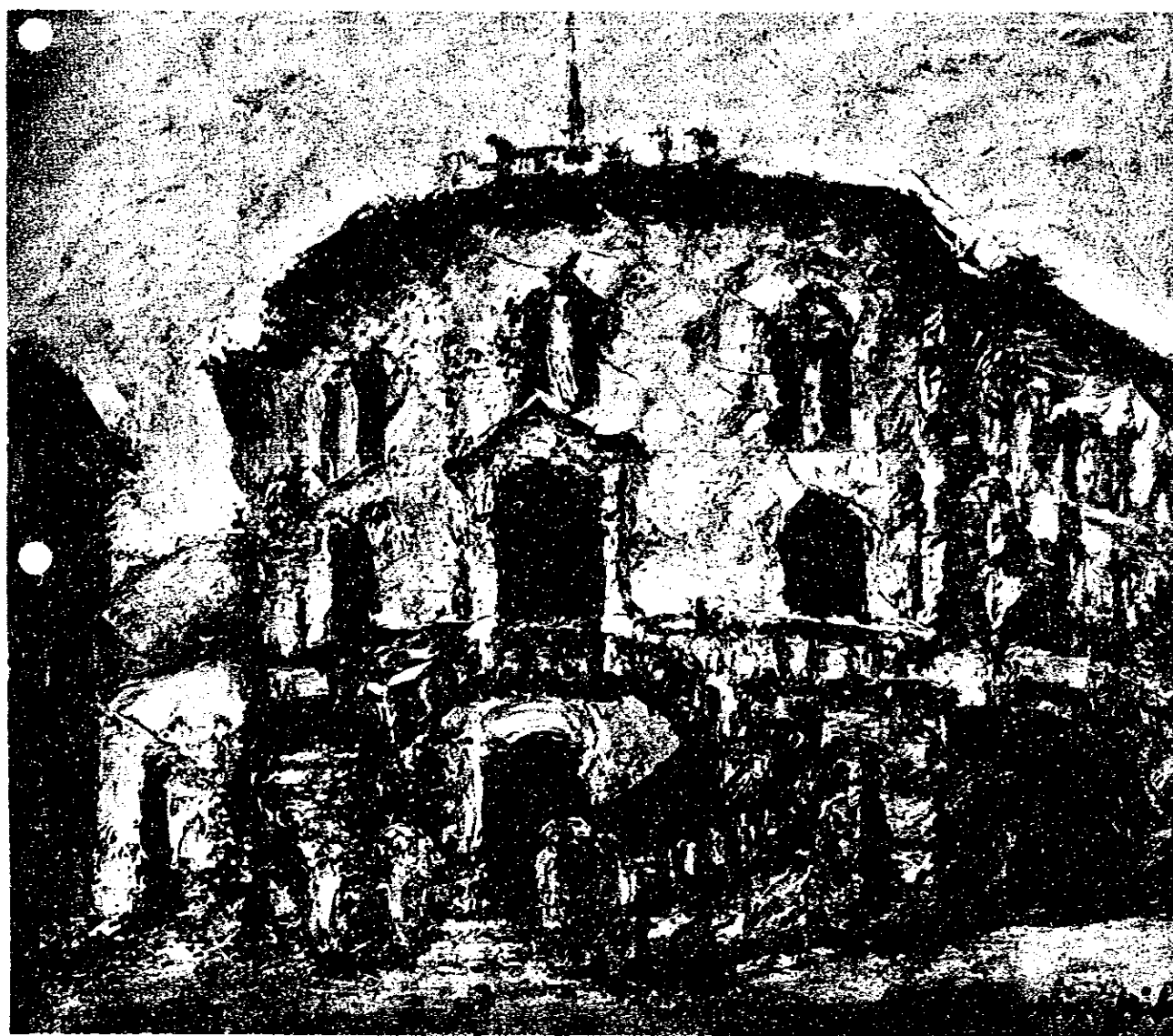


六稜舎報

NO. 18

1985・10・1

昭和60年10月1日発行
発行 大阪府立北野高等学校内
六 稜 同 窓 会
〒532 淀川区新北野2-5-13
電話 06 (303) 5661代表
振替 大阪9-068025
六稜同窓会 名簿刊行会
振替 大阪1-309004
編集 山本次郎・溝脇正巳・阪田善信
印刷 フジエフオー ト印刷
電 話 0729 (67) 8 2 5 4



モンテカルロの裁判所

鎌倉利行画 (60期)

本年度

112周年総会 のご案内

会場 堂ビル9階 清交社

北区西天満 2-6-8

TEL. 361-0833

日時 11月15日(金)

PM 5.00 受付 PM 6.00 開宴

(新人歓迎 立食パーティー・ビール飲み放題)

会費 3,000円

(但し、S56卒以降一卒業5年以内と
S3卒以前一75才以上の方一 無料)

※ 出席の御連絡をお願いします

卓話 「琵琶湖畔より」

滋賀県琵琶湖研究所所長

吉良 龍夫 氏 (昭和11年卒・49期)

卓話者紹介

1919年 大阪に生まれる

1936年 大阪府立北野中学校卒(49期)

1942年 京都大学農学部卒

京都大学助教授、大阪市立大学理学部教授をへて、

現在 滋賀県琵琶湖研究所所長

昨年(1984年)日本で開かれた世界湖沼会議の開催国代表として活躍、11月永年の地味な研究と日本生態学会会長としての活躍に対して紫綬褒章を受ける。

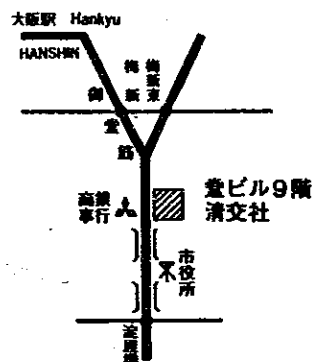
著書に「生態学の窓から」「自然保護の思想」「熱帯林の生態」「生態学からみた自然」がある。

中学時代の吉良君は真面目で、成績優秀であった。特に印象に残っているのは昔の学科で「博物」に深い関心を示し、植物採集や昆虫採集に熱心であったように思う。その頃の博物担当の大須賀嵐一先生、作業担当の高田新作先生のお気に入りのようであった。

しかしそういう植物採集、昆虫採集をしながら、それ等の生態の変化、変動のようなものが、今日の吉良君の学問の根柢をなしているのではないかと思います。

彼の素晴らしい所は、著書の文章の美しいこと、研究のため地理的に広い範囲に足を運んでいること、TVなどに写っている彼を見て髪の毛が量かで、若々しいことです。

この卓話をお願いした時も20分位の短い話をしたことがないからと困っていたようですが、何かわれわれに考えさせる話をしてくれと思います。(49期 中村 弘)



ご挨拶

学校長 松下邦夫



2年間本校の充実に尽力されて、この春ご勇退された村田義人先生の後任として着任いたしました。輝かしい伝統をもつ本校の校長に就任いたしました、非常に光栄に存じますとともに、その任の重さをひしひしと感じている次第でございます。

本校に参りまして、教職員や同窓の方々が、本校に対して極めて高い誇りを持ち、それが本校の秀れた伝統や校風のもとになっていることを強く感じております。事実、本校の平素の教育活動や卒業生の進学状況を見るとき、他の追随を許さないものがあるのは、この「高い誇り」という精神面の太い柱があればこそと考えております。私は、学校がその誇りに値する教育力を持続することや、特に生徒がこの「高い誇り」を身につけて、ふさわしく励むことのためにいささかなりとも貢献することができればこれに過ぎる喜びはないと考えております。ご支援やご激励をお願いする次第でございます。

さて、本校の当面する問題を二つご報告いたします。一つは学級増の問題です。大阪府では、公立中学校の卒業生数が、今後2年間で約7千人増加しますが、その後急速に減少することが予測されております（8年間で約5万人減）ので、府当局としては新設校を建設すること

が困難となり、学級定員増や既設校への学級増で対応することとしております。そのため本校も5月末、62年度から1学年について2学級増（14学級となります）とすることの通告を受けました。北野の教育の維持という観点からは好ましいことではありませんが、府民の子供の受け入れという役割のあることも事実でございますので、今後はそうした状況の中で如何にして北野の教育を守るかが課題と考えております。

もう一つ本校校舎の老朽化の問題があります。本校の校舎はご承知の通り、昭和6年に建てられ、縦タイル張りの重厚な建物で、日本建築学会からも①姿形がよい、②地域の歴史をたどる上で大切である、③その時代の建築様式をよく示しているなどの理由から貴重であると思われる建築物の一つに選ばれています。同窓の方々の深い思いが籠められている上に、こうした価値の高い建物ではありますが、一方において老朽化が進んでいることも事実でございます。先に記しました学級増の時期が過ぎる60年代の後半には必ず改築の問題が日程に上ってくると思われます。その場合、できるだけ本校にふさわしい重厚な建物とするためには、今から検討を開始することが必要と思いますので、まず、校内で組織的に検討を進めて参りたいと考えております。同窓会のお力をかりることもあると思いますので、その節にはよろしくお願いいたします。おわりになりましたが、六稜同窓会の一層のご発展を祈念して、就任のご挨拶といたします。

ご略歴

長野県下伊那郡のお生まれ、飯田中学校から陸軍予科士官学校入学後、終戦。東京高等師範学校、東京教育大学理学部数学科ご卒業。島上高校、今宮高校（全）、千里高校（全）、府教委 指導第一課、第二課長、北千里高等学校校長をご歴任。本年4月1日、本学校長としてご着任。

年会費は 2,000 円です !!

よろしくご協力をお願いしまあす !!!

年会費制度の採用によって、随分と同窓会運営に余裕ができ、総会の運営・会報の発行、その他の事業も順調に進めてまいりました。ご協力を感謝し、謹んでお礼申し上げます。

年会費は 2,000円です。旧に倍するご協力ご協賛をお願い申し上げる次第です。納入は郵便振替を利用して下さい。

番号 大阪9-068025 名称 六稜同窓会

▲お手元の六稜会報郵送の表をご覧下さい。右下に番号と＊印があります。＊印は昭和59年度年会費納入済の印です。個人番号の前の部分は年回を表わし、後は各回内での番号です。年会費等を払い込まれる時は、年回、個人番号を併記して下さい。事務処理が能率的になります。

▲ 110周年記念名簿の残部があります。1冊3000円（郵送料込み）。御希望の方は、下記へ郵便振替にてお申し込み下さい。振替 大阪1-309004 六稜同窓会名簿刊行会

昨 年 の 総 会 か ら

卓話

ス ポ ー ツ と 演 劇

日本映画テレビプロデューサー協会々員

八 橋 卓 (59期)

昭和15年に北野に入学し、20年に卒業したが、動乱の時代で、ある時軍隊の学校へ行くべきであろうと思い、担任の先生に話した所、苦渋に満ちた顔で、「本当にお前は行く気なのか」と言われて止めた。北野の先生のすばらしかった点だと思う。

北野でラグビーを始めた事が一つの大きな人生の契機であった。戦争で学校へ行くことがなく、動員、動員に明け暮れ、動員先で仲間とラグビーをした。戦争に負け、価値感が一変し、何をしたいのか、何を信じていいのかわからなくなり、しかたなくラグビーだけを忠実にやった。風呂敷にくつとパンツをぶらさげてグラウンドに行ってみると、先輩達のチームに引き入れられて、日に3回も4回もやるという生活をした。その合間に芝居を観るということが、次第に、美しいものへというあこがれになったのかも知れない。関西学院に入っても、ラグビーをやり、休みの日に芝居を観るという生活を続けたが、「スポーツというものも美しくなければどうにもならない」といつの頃からか思う様になり、「ラグビーのプレーも美しく、しかも鍛えられた体と技術とが、相手も入れて30人がすべてが美しくなければならない。勝つということではなく、いかに勝つかということを考えよう。」という点から自分の将来を見通したところ、やはり芝居をやるのがいいのではないかと思い、2年前に出来たばかりの俳優座の演劇研究所に入って、俳優の勉強をわずかと、殆んど裏方の仕事ばかりをやっていました。

俳優座に入った時、「血のメーデー事件」があり、私も参加し、警官隊に追われて逃げたが、地下鉄の渋谷駅で階段の上から負傷した人、服の破れた人を下へつき落とし、下でつかまえ連れて行くという場面に出会い、非常に腹が立ち、交番に行き先頭に立って抗議したが、ある大学教授に外に連れ出されて、今の現状についての話を聞いて戻ってみると、一緒に抗議をしていた連中がトラックにほり込まれて連れていかれるところであった。この事があって、スポーツをやっている時からどうしても人間を大事にしなければ、あらゆるものがうまくいかないのだという風に漠然と思っていたが、そういう時に勇気を持って行動することが出来るか否かが、人生の分かれ目の様な気がするようになった。

テレビ局に入って番組を作り始める時はモデル・ケースがなかった。教育の実践をすばらしくなさった先生方の記録を読んだり、お話を伺ったりするのが一番プラスになった様だ。「判決」というシリーズ200本中、一番教育と戦争ということをテーマにしたものが多かった。視

聴者の皆さんや出演者には非常に評判がよかったが、放送局、スポンサー関係からは不評を買ったようで、スタジオ外では小さな顔をして頭を下げて歩いたような時代であった。

テレビの影響力がまだ少ないころは、自分達で喜んで作家も役者も皆が一緒になって作れるというような熱気あふれた時代があったが、テレビの台数が増え始めるにつれて自由にものを考え、ものを創るということがなくなって来た。

かつて教科書裁判の家永三郎先生から「教育とマスコミが人間を造って行くものだ。即効性はないけれども、いつの間にか、それが人間を造ってしまうのだ。この方面に関わる人はこの事を肝に命じて欲しい」と教わった。今、この様に退廃化が進んでいる中で、教育とマスコミについて、今さらながら、もう一度やり直さなければならぬという風に思っているし、それをやって行くなかで、弁護士、裁判官、学校の先生とかにいろいろお会いする機会がある。それも北野の仲間がそういう所にたくさんいてくれたおかげで、普通では仲々取材できないようなことを取材させて頂ける、これも北野のお蔭と思っています。十分意を尽せなかったと思いますが、「人間を大切にしていれば戦争のない様な所でしか文化は発展しないのだ」ということを、一言、私のいいたいことの締め括りとさせていただきます。(要旨)

文化活動振興賞 (通称 八木彰一郎賞)

今年度から母校生徒らの文化活動に

去る昭和58年9月23日、戊辰戦役の歴史探訪途上、京都・伏見の城南宮附近路上において交通事故による不慮の死を遂げられた故八木彰一郎君(62期)を記念し、かつての級友や遺族の志により、この度、母校の生徒を対象に「文化活動振興賞」が設けられることになった。

大戦の火の手が本土に迫る昭和19年春に入学した八木君ら62期生にとって、文化部などの活動はおろか、授業さえ無期限停止となり、もっぱら農作業をこととする北野中学校生活であった。やがて敗戦により、国はゆらぎ、価値観は一変し、人は飢えた。そのような戦中戦後を通じて八木君は地歴班の異色リーダーとして、歴史研究に無垢の情熱を燃やしておられた。かの歴史研究グループ「わたつみ」会の一員である。

八木君はこの歴史研究の道程においてその生命を全うされた。その遺志を偲び、同時期卒業生らの在学中における顕著な文化活動を継承し、ややもすれば現今の経済的繁栄の中で、若人らに見失われがちな、真理探究へのたゆまざる努力を後輩たちの胸に蘇らせ、輝かしい伝統が永く受け継がれることを期待するものである。

会 務 報 告

第一回常任理事会 6月14日

第一回理事会 6月24日

上野会長、鴻池副会長、松下名誉会長

他理事33名出席

議案1. 新理事紹介 丸井茂仁 (S14年卒)

丸山英敏、入倉順子 (S35年卒・理事交代)

町田博宜、二宮美世 (共にS60年卒)

内藤伸彦 (S50年卒・学校理事)

2. 昭和59年度会計報告 別紙のとおり

3. 昭和60年度会計予算案

4. 昭和60年度総会について

*

*

○栗坂原健三理事 (T5年卒)・杉本一郎理事 (S10年卒)・田中仁也前理事 (S14年卒) が亡くなりました。謹んで哀悼の意を表します。

○同窓会事務局をS10年卒平沼行氏にお手伝いしていただくことになりました (週二回)。平氏には110周年名簿発行のさい、事務局長をお願いしており、名簿関係その他の仕事をお手伝い願います。

会 計 報 告

昭和59年度 六校同窓会 一般会計報告

科 目	59年度予算	59年度決算	備 考
収 入 の 部	円	円	
1. 前年度繰越金	2,528,448	2,528,448	
2. 入会金収入	1,695,000	1,678,000	1,678人× 1,000円
3. 年会費収入	4,700,000	5,431,000	
4. 広告収入	200,000	190,000	
5. 臨事会費収入	500,000	378,000	126人× 3,000円
6. 寄付金収入	10,000	18,000	
7. 利息収入	60,000	37,236	
8. 雑収入	10,000	3,100	
収 入 合 計	9,703,448	10,263,784	
支 出 の 部			
(1) 運営費			
1. 人件費	700,000	19,200	
2. 旅費・交通費	200,000	104,966	
3. 通信費	300,000	72,790	
4. 印刷・事務用品費	200,000	360	
5. 会議費	300,000	202,930	
6. 総会費	1,000,000	951,280	
7. 慶弔費	700,000	589,830	
8. 雑費	150,000	146,615	退職記念品 料を含む
(2) 会報発行費			
1. 編集費	100,000	60,000	
2. 印刷費	1,500,000	1,551,746	
3. 発送費	1,300,000	1,235,390	
4. 雑費	10,000	0	
(3) 予備費	1,743,448	0	
(4) 他会計へ支出			
1. 基金積立会計	1,000,000	1,000,000	
2. 名簿特別会計	500,000	500,000	
支 出 合 計	9,703,448	6,435,107	
次年度繰越金	0	3,828,677	

昭和59年度 六校同窓会名簿特別会計報告

科 目	予 算	決 算
収 入 の 部	円	円
1. 前年度繰越金	1,691,110	1,691,110
2. 名簿売上収入	120,000	註※ 324,000
3. 広告収入	0	70,000
4. 利息収入	35,000	86,732
5. 雑収入	0	0
6. 一般会計より受入	500,000	500,000
収 入 合 計	2,346,110	2,671,842
支 出 の 部		
1. 編集費	10,000	0
2. 印刷費	500,000	823,832
3. 発送費	20,000	28,080
4. 雑費	10,000	2,020
支 出 合 計	540,000	853,932
次年度繰越金	1,806,110	1,817,910

註※ 58年度残534冊、59年度売上108冊、59年度寄贈1冊。
59年度残425冊 1冊 3,000円

昭和59年度 六校同窓会基金会計報告

科 目	決 算	摘 要
収 入 の 部	円	
1. 前年度繰越金	34,332,936	大和銀行 金銭信託
2. 利 息	2,373,828	
3. 新規積立金	1,000,000	
収 入 合 計	37,706,764	
支 出 合 計	0	
次年度繰越金	37,706,764	大和銀行 金銭信託

以上の通り 昭和59年度六校同窓会会計報告をいたします。

昭和60年5月17日

六校同窓会長 上 野 淳 一

本会計の正確であることを認めます。

昭和60年5月17日

六校同窓会監事 滝 井 尚 三
同 斜 田 圭 兒

東京六稜会第28回総会報告

東京六稜会常任幹事 大山利雄

60年度の東京六稜会総会は6月7日午後6時より日本工業倶楽部で行われた。今年も200名余の会員の参加があり盛況であった。

冒頭、会則により任期満了となる玉置会長に、会長を引続きお願いする事を、満場一致の拍手のもとに承認頂き、挨拶を願う。世の中の景気は沈滞しているが、早く雲の中から光がでるようになって欲しい。然し、今日はゆっくりと同窓会を楽しんで頂き度いと結ばれた。次いで大阪から見えられた新校長の松下先生から、大変活力のある御挨拶と北野高校の近況報告をお聞きする。大阪から、わざわざ御上京いたった阪田先生と同窓会常任理事山本次郎氏(62回)を御紹介する。会計報告のあと国立気象大学校教授増原良彦氏(67回)の「仏教と日本人」という講演を拝聴する。同氏は昭和30年に北野高等学校を、昭和35年に東大文学部印度哲学科御卒業の、新進気鋭の教授。「ひろさちや」のお名前でも仏教に関する著書も多い。世間の眼を浴びつゝある先生だと幹事より御紹介する。講演は30分。ピッタリと講演を終えられる手際よさ。内容も勿論充実したものであった。キリスト教と仏教の相異をお話し下さり、絶対というものは無い。相対的なものであるというのが仏教の教えであり、これが空であり、縁起であると説かれた。

懇親会は、福井澄男幹事(55回)の司会で、7時より始まる。大正7年御卒業の日野光雄先輩(31回)に乾杯の音頭をお願いする。若い者を凌ぐお元気で音吐朗々と御発言なされる。六稜同窓会会長上野淳一氏がお見え下さり、大阪中津の済生会病院前に北野の旧校舎記念碑が建てられ、盛大にそのセレモニーが行われた事の御挨拶があった。

次いで67回の中馬弘毅代議士の御挨拶、57回の松本善明代議士の祝電披露、いつも御配慮を賜わっているアサヒビールの中小路茂次氏(58回)に御登壇を願う。時間のたつのが速く、あっという間に新会員を紹介する時間になる。昨年、新会員を代表して答辞を述べた東大の村井正親君に今年の新人を紹介してもらおう。新会員を代表して中村成己君が挨拶をする。最後に、中村典美氏(49回)の指揮によって応援歌、校歌の大合唱の下に、8時20分閉会となった。明年の総会は6月5日の本曜日に、工業倶楽部で行います。皆様お元気で御出席なされることをお待ちしております。御尽力頂きました幹事各位、有難うございました。

東京六稜会事務局

〒154 東京都世田谷区若林3-6-18

大山利雄 気付

電話 03-421-0693

仏教と日本人

増原良彦 (67期 国立気象大学教授)

どうやら日本人は、重症の宗教オンチではないでしょうか……。『おまえの宗教は何か?』と欧米人に問われて、日本人は平気で「無宗教」と答えます。無宗教な人間とは、欧米人から見れば、無節操でいつ相手を裏切るかわからん、そういった人間になるのですが、日本人はそれに気づいていないのです。これは、日本人の考えている宗教と、欧米人のそれとが根本的にちがっているからだと思われます。

欧米人の宗教——ユダヤ教・キリスト教・イスラム教——は命令型の宗教です。神と人間は契約を結んだのであり、その契約にもとづいて神は人間に命令を下します。人間はその命令を忠実に履行せねばなりません。そして、命令者は一人です。唯一神でなければならないのです。これが、欧米人が考えている宗教です。

ところが、日本人の宗教は、日本人が宗教と思っているものは、ブラック・ボックス型宗教です。ブラック・ボックスというのは、駅の乗車券販売機ですね。あれは機械の構造をよく知らなくても利用できます。こちらからお金を入れてボタンを押すと(インプット)、乗車券とお釣りが出てくる(アウトプット)。テレビなんかもそうですね。チャンネル・ボタンをインプットすれば、映像がアウトプットされます。どういう原理でテレビが映るか、そんな構造に関する知識がなくても利用できる機械がブラック・ボックスです。

日本人の宗教がブラック・ボックス型だというのは、こういうことです。神社に行ってお賽銭をインプットすると、ご利益がアウトプットされます。ご祈禱をインプットすれば、病気が治ったり、商売繁盛がアウトプットされる。でも、どうしてそうなるか、その構造は誰も知りません。神主さんに問うても、答えられないでしょうね。「昔からそう言われています」と答えるよりほかなさそうです。ご利益があった過去の事例を、統計的に示すのが精一杯です。日本人はそんなブラック・ボックス型宗教をもっています。このブラック・ボックスは、日本に八百万台あります。やおよろず(八百万)の神——といわれていますね。多神教です。どの神を拝んでもいいし、2つ3つの神を同時に拝んでもいいのです。

それはそうとして、さて、仏教です。じつをいえば、日本に入ってきた仏教は、だいたいブラック・ボックス型に改変されています。仏も神も同じようなものだと思われています。仏に信心なりお祈りをインプットすれば、やはりご利益がアウトプットされると受け取られています。それが日本的に改造された仏教です。

しかし、ほんらいの仏教、インドで釈迦が2600年前に説いた仏教は、そういうものではなかったのです。釈迦が説いた仏教を、わたしは「構造分析・法則発見型宗教」と呼んでいます。つまり、釈迦はブラック・ボックスの蓋を開けて、内部の構造を分析したわけですね。そして、

そこから法則を導き出した。わたしたちの住んでいるこの宇宙のあり方を究明・解明し、そしてそれをわれわれに教えてくれたのです。それが仏教です。

では、釈迦は何を教えたか？ 一口でいえば、それは「縁起」です。釈迦は縁起の法則、縁起の理法を発見し、われわれに教えたのです。

わたしは、「縁起」という語を「相互依存関係」と訳しています。いっさいの事物は相互に依存しあって存在している——というのが縁起です。そして、その相互依存関係を、以下に三つの側面から解説してみます。

まず第一は、論理的相互依存関係です。たとえば、1メートルの棒は2メートルの棒に対しては短い、50センチの棒に対しては長いのです。長い・短いというものは、つまり相対的な関係です。できる社員・ダメ社員とわれわれは区別しますが、そんな区別は相対的です。正しい・正しくないも同じです。この世の中に絶対的なものはない、というのが論理的相互依存関係で、仏教のことで言いなおせば、それは「空」ということです。見る者の立場によって、もののあり方は変わるというのが「空」であって、絶対的なもの、永遠なものはないという教えなのです。

第二に時間的相互依存関係。これは原因と結果の関係です。原因のない結果なんてないんだ、という教えであります。ですから、わたしたちが現在、なにかで苦しんでいるとすれば、それはなにか原因があつてのことであり、そして肝腎なことは、その原因は自分がつくつたものだ、ということになります。要するに、自分で蒔いた種は自分で刈らねばならぬ——というのが、仏教の教えるところなのです。

最後の第三は空間的相互依存関係です。これは、いわゆる「持ちつ・持たれつ」の関係。をいったもので、日本人が「えにし(縁)」と呼んでいるものがこれです。日本人は、「情けは人のためならず」といって、人に情けをかけると、それがめぐりめぐって自分のところにかえってくると信じています。しかし、欧米人にはそれが信じられません。めぐりめぐって自分にかえってくることを、誰が保証してくれるか？……と疑って、彼らには信じられないのです。最近の日本人の若者も、信じられなくなっているようです。だから、若者は「情けは人のためならず」を、情けは人を甘やかすことになるから、情けをかけるな、といったふうに解しています。しかし、伝統的な日本人は、めぐりめぐって自分にかえってくることを信じている。それが、その信念を支えているものが、「縁」——空間的相互依存関係の考え方なのです。

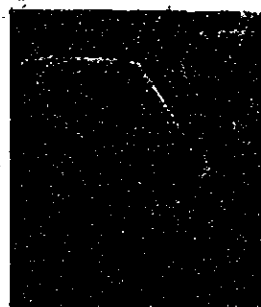
仏教は日本人に、このような「縁起」の思想を教えてくださいました。

六稜健児思い出の記念碑建立

北区芝田町

済生会中津病院前庭

旧北野中学校跡に



母校旧大阪府立北野中学校が梅田の芝田町から現在の十三の淀川河畔に移転新築が決った当時の故江崎誠校長や、故石崎湛教頭をはじめ、同窓会故上野・井岡会長らから芝田町の旧校舎跡に、何か六稜健児思い出の記念になるものを遺したい建てたいという念願がいつれも故人となられた安場・浜崎・安井・阪本・阪田・中川・寺尾さんなど同窓会の大先輩たちから燃え続け、引継がれて来ました。

嘉門メリヤズ会長の御遺志寄付で新築された当時はあのわれわれが野球でラグビーで体育大会で軍事教練での懐しい運動場は殆どが大阪駅上下線の拡張で鉄道線路で埋ってしまい、藤の棚も遊動園木も階段式跳び台やボラの並木も影も形もなくなっていました。

けれども折角の古い歴史と伝統と人材輩出で天下に誇る一中・北野六稜の威風と名声を何らかの型で遺したい念願は恩師、卒業生の胸に燃えつづけて来ました。

昭和58年秋、この念願は大きな火の玉となって、ここに「大阪府立北野中学校跡記念碑建立の会」が結成され、会長に同窓会副会長鴻池藤一氏(S5)

実行委員に梅原義一氏(T12)、白井次郎氏(T15)、岡田喜雄氏(S2)、奥村宗夫氏(S8)、杉本一郎氏(S10) 監事に藤井精一氏(T15)、末吉健氏(S3)、

顧問に上野同窓会長、豊島済生会中津病院長、村田18代校長、旧師水島、土屋両先生らを仰ぎ、

加えて昭和10年旧校舎から十三の現校舎に移ってからの旧制中学卒業の各年度より世話人を推薦依頼して、いよいよ寄付協賛募金の活動を開始しました。

以来、募金は急ピッチで進み、昭和59年6月末には目標額に倍する募金が集まりました。

とき到大阪府済生会ならびに病院長との交渉を進め、現在病院の新築工事中であるにも拘らず、済生会ならびに病院長の特別のご好意取り計いにより、記念碑竣工除幕式を昭和60年4月20日(母校閉校記念日)に挙行させて頂くことになりました。

これをもっていよいよ母校を思い愛し伝統と歴史を誇る六稜健児の象徴として燦たる永遠の記念碑礎石が泰然光を放つことになったのであります。

協賛寄付同窓会関係に感謝を捧げるとともにこの記念碑があとに続く六稜健児諸兄らの後世への励みと光を与えられんことを祈って止みません。合掌。(岡田喜雄記)



北野戦後史

題字 泉 徳二元校長



—— 連載第8回 ——

思い出すまゝに

西田 競文

鈴木先生との出会い

昭和7年の4月、北野中学へ入学して間もない頃、ある日の夕方、中津に住んでいた私の家に、初老の紳士が入って来られた。

「ボク鈴木です。この家に北中へ入った生徒がいるはずじゃが」

応待に出た私はまだ小学校の半ズボン姿であった。

「私が1年5組の西田です」

「あっそう。ボクの家を知らんかね」

ちょっと面喰っていると、奥さんが宿替えの手筈を独りで樹てられその日引越しをされたこと、入学願書からその新居の所番地に似たところに私の家があるのを探し出されたことなどを話された。内容が内容であるのと、聞きなれない口調のため、理解に少し手間だったが、

「川沿いにこの間空家ができました。そこかも知れません」

ということでお伴すると、そこがご新居であった。

これが鈴木先生との出会いである。

後日、鈴木先生に習っていることを知りびっくりした。新入生とはこんなものか。また、そのうちご長男と私の弟とが同級生であることが分かったりした（この二人も北野53回生）。しかし、カレヤんの頭の中には、目立たぬ生徒の私のことは、殆ど残っていないはずである。

終戦後、海軍兵学校から復員し、阪大理学部の研究室へ戻ったが、副手とは名ばかりそれも無給で、実態はブラブラしていた。戦後の混乱期に無給で食いつなぐ恒産もなく、それこそヤミまがいの事までやっていたが、22年4月から関西学院理工専門部の専任講師をしていた。

24年1月、事務の人が

「北野高校の教頭さんがお見えです」と、いうので、会ったのが鈴木先生との再会である。物理の教員が足りないで困っているが来る気はないか、とのこと。私は「先生」をいつまでもやる気はない、といっておことわりした。

「先日の先生がまた来られましたよ」

2月の末か3月のはじめごろ、深い雪の日に先生の三

度目の訪問を受けた。阪急仁川駅から関学までは、相当な坂道である。気管支のお弱い、それに風邪気味の先生は、ぜいぜいとした息をされていた。

「物理の先生が一人も居なくなるのだ。是非北野へ来てくれ」

「次々と自殺する生徒がいて困っているんだ。卒業生として一つ面倒見てくれないか」

いろいろ、そして強いご要請である。

恩師水鳥喜平先生からも、この三度目のご訪問以前に、私立の大学の先生より府立の教諭の方が良いのではないか。君の後輩の石田君というのが非常に良い先生で頑張っているよ。などお奨めを受けてもいた。

「海軍が2年、ここが2年です。2年間でよければお世話になりましょう」

学生の時から、何かハード面の職に就きたく、ソフト気味の職業である先生にはなりたくないと思っていた私も、関学2年間の学生との付き合いから、これも捨てたものではない、と思い始めていたこともあり、恩師に対し失礼な表現ながら、北野へ転職することにした。

このような私事的経緯を、くどくどと書くことは、本紙を手にされた大方諸兄に対し、まことに失礼とは思いますが、後年の鈴木先生と私の関係をよりよく理解して頂くためと、今一つの目的のためである。

実は、先年の「六後だより」記載の座談会記事の内容について、大阪府教育委員会のある課長から、公式の席上で「北野」に対する強い非難があり、当時の校長、泉徳二先生に、それもご勇退直前に、多大のご迷惑をかけ、不愉快な思いをさせたのであるが、私として甚だ心外であるので、今一度触れて見たいためである。

その時の私の問題発言とは

「北野へ来たのであって、府立高校へ来たのではない」というものである。

これに対しては、前述課長以外にも同様の感じ方をされた向きもあるようである。

この発言は、「北野の仲間」の中での余興的なオフレコ発言で、これが記事になったのは、本紙編集責任者山本次郎君のいたずら心からであるが、そのことを以て釈明とするつもりはない。

私は、かの岡田バカリキ先輩には足もとにも及ばないが、北野オンチの一人である。ともかく「母校」でなければ移るつもりは毛頭生じなかったであろう。これが

「北野へ来たのであって……」

の発言の唯一無二の理由である。

以前は洋行帰りの人が「あちらでは」をつけて敬遠された。北野からよそへ異動した人の、「北野では」つき発言は多くの場合説得力がない。また嫌がられるもする。これは理由がないでもない。しかし、私の発言の場合は、多少のイヤ味はあるにしても大声で非難することはあるまいと思う。

これからが本文

ともかくこのようにして北野の教師になった。これらが本文と思って頂きたい。

北野に着任して

その頃の北野には、鈴木教頭のほか、恩師の水島、岡島、福島 の3先生が居られ、また事務室には相馬さん、保健室には中山さんが居られ、さらに校医には少年時代の主治医でもあった勝正雄先生が居られた。北中の先輩の小寺、佐賀両先生や後輩の石田先生が既に居られたところへ、先輩の中山勝治先生と同時に着任ということになった。こんなこともあり、着任早々から、おれの学校だというようなつもりで何にでも口を出すアツカマシ存在であった。若造のくせに、と思われた先生方も多かったであろう。このあつかまし屋の傾向は18年後布施高校に転動になるまで続いた。諸方にご迷惑をかけたことと思う。この紙面を借りてご寛容を願う次第である。

当時の校長は私の母校大阪高校の教授から学制改革後移って来られた林武雄先生であった。O型の典型のようなお人柄で、また一度手の掌を見た時、知能線の長さに一驚した覚えがある。着任早々3年生の担任に任命された。未経験者をいきなり3年とは、との危惧をもらされた先生もあったが、アレならでき、とのツルの一声で決ったとか。買い被られたものである。

このクラスには24年春甲子園の選抜野球大会で優勝したチームの3年の全メンバーがいた。水球全国準優勝のメンバーもいた。山本次郎君の言葉を借りれば、「悪いヤツばかり」のクラスであった。同じ選択科目を取る工作によりまとまったということである。

野球部長(顧問)の要請によりその補佐役を引受けることになった。全国優勝チームということで方々から招待試合の声がかり、坂出への遠征試合に付添う等のことがあり、クラスの中でも野球のメンバーとの付き合いが強くなった。全部で7人でそれぞれ個性を異にしながらも長短相補って一種独特のまとまりのある愉快な連中であつた。このメンバーの一人が、前述の本紙編集責任者山本君である。衆議院選挙一票の重みに係わる遠慮訴訟の原告代表などで著名の山本弁護士を「君」呼ばわりする理由はここにある。当時、新聞は全国優勝の原動力として「小さき大投手」多湖隆司君の存在を挙げていたが、この7人のまとまりによる相乗作用も落してはならぬ主原動力であつたと思う。この7人は卒業後、東大、京大2、神大、和歌山大、慶応、同志社へと進学したが、このことを後年進学指導の中心の係を勤めたとき、クラブ活動と勉学の両立の一例として挙げたものである。

私の18年間の北野教師の全期間を通じて、この野球との関係は続いたのであるが、前半は生活指導部に属し、その方の仕事も多かった。早々の6月に、一時中断していた前年度からの生徒連続自殺があり、その対応や防止対策の検討に追われた。次の年に府教委の治郎九教育次長がこの件の調査を主として来校されるなどしたが、依然自信ある方策は見当らなかった。幸いにしてこの系統の自殺は、結果としてはこれが最後であつたが、校内外にこの一連の事件に対する記憶は残っていて、30年に森繁久弥氏が来校講演されたときにも、この点にふれ、温かみある調論を挿入された程であつた。

また、指導部主任原勝己先生のご要請で、文書係にも就いたが、これは当時、反骨精神旺盛な生徒達が多く、学校に対する諸要求や、アジ気味の内容などを含む掲示に対し、制限を加える仕事であり、くり返し、そして時に遅くまで、元気のよい生徒達と論争したものである。その総決算のような形で、一つの暗い思い出がある。

25年の事であつたか、或る生徒が同窓会館の横で、無届で反戦平和運動の署名活動をしていた。それが林校長の発見する所となり、中止されると共に、始末書(反省文)を書くよう命じられた。結局は書くことを断り続け校長の指導に服さない、との理由で退学処分になった。たまたまこの生徒の父が、私の出身の阪大理学部教授であつたため、幾人もの人から「お前が居りながらそれ位のことで退学にするとは」と苦情や処分撤回の要請を受けた。その生徒は学年屈指の秀才であり、私もいろいろ指導したが、教授自身、反省文を書く要なし、との意見を持って居られ、何とも致し方がなかった。数年後、この生徒から相談があり、転入学に必要な書類を作成したりしたが、その後どうしたのか、消息不明である。

大手前より移籍した女生徒たち

私の着任の前年、学制改革に際し、北野は大手前との間に教員及び生徒の交流があり、男女共学になっていた。六・三制も、男女共学も、心情的要素も含め、私は大反対であつた。これも鈴木先生のご要請に対しさんざん躊躇した理由の一つであつた。

さて25年には2年の担任になったが、このクラスに10数名の女生徒がいた。前年のクラスは男子ばかりであつたのと、私の担当の物理の授業に出席する女生徒はごく少数であつたので、女生徒の存在はあまり気にならなかつたが、今度は自分のクラスに居るのである。生来嗅覚が発達していて、おかつぱ頭の臭いすら気になる始末である。男生徒がぐずぐずしていると「女のくさった様なことをするな」というような叱り方をして見せる程のこだわり方であつた。

この偏見含みの態度や認識は徐々に改めざるを得なくなつていった。氏家章子さんを代表とする人達が、便所掃除のチームを作り奉仕活動をする等、いろいろな面で積極的であつた。それもさし出たところがないと同時に一種の明朗性を含んでいた。淑女の集団というのであろうか(コレハチョットホメスギ)。そのうち私達をグウの音も出ぬ程驚かせたのは、修学旅行にまつわる一件である。そもそも修学旅行なんて意味はないが、男子に比べ女子は将来旅行の機会が少なからうから、行くのなら女子だけで行かせよう、との林校長の意見で、そのように決っていたのだが、期日の直前になり係の先生から、列車や旅館の手当がつかないので今年は取り止めに、と生徒に通告した。ところが、その翌日、数名の女生徒が、学年主任の岡本先生のところにやって来た。自分たちで予約がとれそうだが、うまく行けば修学旅行をさせてくれるかというのである。これには制止する理由がない。結局は彼女達の調べてくれた旅程で実施することになった。そしてその道中、旅館の部屋割に至るまで一切

われわれの手を煩わすことがなかった。教員には夕食に晩酌がつく、という有様で、教員の付添いは、指導する役ではなく、むしろお客様であった。

大手前からの移籍生徒はこの学年で終るのであるが、その締めくくりとでも言うべき圧巻は卒業式での一コマである。

デザイナーとして著名な森女史、当時の山森南海子さんが、他のすべての生徒が標準服を着ているなか、ピンクのローブに身を包み、名簿順により講堂の最前列に身を置いた。挙措動作など日頃と変わりが無い。式もまたそれを異常とせず、型通り進行した。

北野の卒業式に、卒業生がピンクのローブで出席することは空前にして絶後であろう。しかも、あの林校長を含め、誰からもその批判を聞かない。まさにビクッと決っていたのである。

そして、このような要素を備えた人が、他にも居たように思える。後年、今の女生徒とあの頃の連中は違うなァ、という感慨を交わしあったものである。

数年後、この時のクラスの女子代表格の酒井耀子さんが、女子だけのクラス同窓会を自宅で開き、私を招待してくれたが、私にだけ出された鮎のウルクを味わいながら、私の対応も女生徒に対して失点ばかりではなかったのだと、安堵したことであった。

昭和31年

野球部のことに戻れば、全国的に名を知られることになった多湖投手を擁して、3回目の出場になった25年の選抜大会のことや、その4月入学して来た山口欣二投手を入学式前に登録したこと。この山口投手の剛速球により、連戦連勝の成績であったこと。封豊中高校でパーフェクトゲームを完成したこと（その日、前年度主将慶留間一君のご尊父が急逝された）。津田監督の打球を右ひじに受け、ぶっ倒れた時の有様。その山口君が回復して出場した27年の春の大会で対鳴門高校の8回、突然ダウンし、その後を新人国米宏君が無難に投げ抜いたこと。等々、北野野球部の状況については思い出が尽きない。修学旅行先でも、あの野球の北野ですかと、くすぐったい称号で呼ばれたものである。これ等のことを詳述する紙面の余裕を持たないが、ただ、残念な思い出の代表として、31年夏の大阪予選における活躍を記して置くことにする。

その時の主将は、丹羽弘君で、主戦投手であり四番打者でもあった。といっても決していわゆるワンマンチームではなく、多士済々で、優勝候補の一角を占める実力チームであった。天王寺、布施、市岡、島上、住吉と、ノーヒット・ノーラン試合1を含め、すべてシャットアウトで準決勝に進んだ。相手は小宮山投手を擁する清水谷高校である。小宮山投手は府下中学校大会の優勝投手で、北野の三番木戸君にとっては優勝戦での吊い合戦に当たる。0対0で進んでこの木戸君が8回表1死2塁の走者になった。打者は磯村君、好打者である上、バントの名手である。1死2塁で打者磯村の時は2球目に走者は3塁へ走り、磯村は3塁前にバントする。そして1塁投

球の間に走者は本塁につっこむ、という打合わせが、日頃からしてあった。まさに好機到来である。投手の球がそれで作戦通りには行かなかったが捕手の3塁送球は大きくそれた。しめたノと思った瞬間、それ球が3塁審判に当たってその辺りにコロコロ。ため息の一瞬であった。結局、試合は10回裏の清水谷の1点で敗戦に終わった。6試合合計では27対1でなお決勝進出を阻まれたのである。不運という外はない。この時の3塁の塁審には、他の時にも相性の悪い結果になっている。甚だ蛇足だが、当時の無念を想起し、付記した次第。

同じ31年の5月には、天下を揺がす大事件があった。本校生A君による熱田神宮侵入事件である。他に本校と他校の各1名がついて行ったが、殆どはA君によるものといってよい。A君はたまたま私のクラスの生徒であった。非常に、いやむしろ異常に、頭の良い生徒で、行動も興味の向け先も常識を逸脱していた。1年時から問題生徒とされていたらしいが、それを知らされぬまま3年に私のクラスに入って来た。この点を先ほど「たまたま」と表現したのである。A君の変わった行動に気付き、その内に話をしようと思っていた矢先、5月の連休から顔を見せなくなった。そして突然この事件が伝えられたのである。A君は刀剣類にも興味を持ち、草薙の剣の存否を確かめたいというのが目的であった。数日の下見により、警備巡回の時間等まで綿密な予備調査の上での決行だったとか。格納庫のかんぬきが金属ノコで半ば切断されかかっていた由である。神宮当局で番犬の挙動などから異常を感じ、巡回間隔を半分にしていたのが、犯行を未遂に終らせ得る原因であった由。A君は該山神社、多田神社からも宝剣を窃盗し部屋に匿していたことが判明した。

「戦前なら、知事も校長もまた俺も首だなァ」等と冗談を言いながらも、A君の転校先を見付けるのに大苦勞をした。A君の異常さも、仕出かしたこともさることながら、A君の偉れた点を世に役立てたいと考えたからである。

「北野ではダメで、私の所なら取れるとおっしゃるのですか」等々の扱いを数校で受けるなど、さんざん苦勞の後、鳴瀬高校に転入学させることができた。この件では、超難物の下宿を引受けて下さった福永光司先生と、鳴瀬の倉知校長先生の、大度量に今なお敬服と感謝の念を禁じ得ない。

A君は東大卒業後、農林省登庁初日を境として、世に消息を断ち、いろいろのナゾを残して姿を消したままである。A君のことを心配した同級生の長東君や、菅君その他の同窓生の、親身な努力が実を結ばなかったことは、まことに残念である。

31年のことを二つ挙げたついでに、私のクラスにいた桜井和子さんのことを述べて置こう。先程の「今の女生徒と、あの頃の連中とは違うなァ」の言葉のもつ意味をカバーするためもあり、この学年が私が1年から持ち上った唯一の学年であり、次の年度にはクラス担任をハズされ、結果として、私の教師生活の最後の担任クラスにな

ったという、私の個人的理由にもよる。

桜井さんは3年間を通じ首席を通した。このことは当時の関係者のすべてがご存じの事柄である。しかし、断郊競争で女子のトップであったことを合わせ認識されている人は少ないと思う。また、ピアノに堪能であると同時に、踊りの名取り、であったことまでとなると益々紛なかる。大学選択に際し、ご尊父の、京大は女子が少なく、過少価値評価を受けて男子に持てすぎる、との頑固なまでの主張により、京大受験を結局は諦め、阪大薬学部に進んだ。この桜井さんが、北野始まって以来、最初に卒業生代表答辞を読むことになる。

この答辞は、あまり誉めることをされない林校長の絶賛を受けた。当時、関係がいささか険悪であった私が、少々手を入れたことを知られたらどうであつたらうかと、いらぬことを考えた程であつた。卒業後数年を経て、やはり有名生徒だった林祥恵さんと拙宅へ遊びに来た時、「あの時の授業だけは判りませんでした」と言い出したのには、勘の鋭いのに驚かされた。実は学年の終り頃、教育委員会から中野次郎指導主事引率のもとに数名の方が授業参観に見えた。私はこの人達を煙に巻いてやろうとの下心で、私の大学時代の専門の「マススペクトル」の話、進度の順を不得意なテレビの所と入れかえて講義したのである。賢い生徒はゴマかしはきかぬと思ったことであつた。

鈴木先生ご退職のころ

林校長との間が険悪になっていたと言ったが、このことに触れずに置くことは、逃げたと思われるであろうから、甚だ気は進まないが、感想的に述べて置く。

林校長時代、北野の職員会議は、議長林校長の独壇場であつた。一方、私も遠慮なく意見を述べた。校長と西田の発言が、大部分の時間を占めたことも一再ではない。しかし、このことが関係をこじらせて行つたのではないと思う。それ以前に悪くなつてゐた鈴木先生と校長との間のことが問題である。詳しいことは判らぬが、いわば家付きの城代家老の上に、才豊かだが妥協ぎらいの大名が、天下つて来たような関係とでも言えようか。この二人の関係を見るのに、英国の女流作家の小説の中にある「ケンカをしている二人の間どころに真実がある」という言葉が当たっているように思う。このような関係における鈴木先生の、子分のような存在の私に、生意気なことをいう若造のイメージが重なつたのが、林校長の私に対する扱いとなつたのだ、と私は思っている。

林校長は、私が言うのはおこがましいが、名校長であり大校長であつたことは確かである。あえて難を言えば、心情的にこころよい人達の意見や注進を取りあげすぎる傾向をお持ちであつたかもしれない。私の疑問とするところは、教授の身分を捨てて府立高校の校長に来てやつた位の気位の大校長なら、その力をもって、鈴木先生を他校の校長に出すなりなんんりの手を打てなかつたものか、ということである。

いまは亡き、そして生徒の人気第一であつた栗井ガンジ一先生も、ケシカラン組の一員であつたが、生徒のこ

との外は念頭になかつた栗井先生がそうなられたのには私との交友以外にその理由を見付けることができない。

鈴木先生が退職された後、岡田喜雄先輩その他同窓会役員等のご尽力により、中央公会堂で挙行された顕彰会は、馳せ参ずる卒業生で満ち溢れたが、鈴木先生が35年を北野に奉職されたことだけが、これだけの人数を一堂に会せしめたのではないと思う。森繁久弥先輩と抱き合つて歌われた「枯れすすき」の声は多くの人の唱和で聞きたれなかつたが、先生の胸中に去来したであろうことを、あれやこれや、この文を書き乍らも付度するのである。この顕彰会のことは全国的にも珍しいこととして、新聞にも大きくとり上げられたが「北野百年史」に影も形もないのは私には不思議である。

結びに代えて

鈴木先生ご退職の後、全国教育界を揺がせた勤評闘争が起り、北野も大きくそれに巻き込まれた。そして、この場合にも私は人一倍関わり合つたのであるが、ここでそれに触れて行くことは、それこそ差し障りを惹起しようから、責任紙数を越えたことを幸いにコメントを差し控える。願わくは、「北野百年史」1563頁から1568頁を読みたい。中でもその年の卒業式の生徒代表窪田邦雄君の代表答辞を是非披見されたい。負うた子に教えられる思いで聞いたものである。

林校長の後を承けられた竹内鑑二校長が、常々学校経営の中心として口にされた「生徒のために」という言葉があるが、まさに至言であると思ひ、私の心中の銘としているのであるが、現在、北野にご在職中の教職員の方々には、是非この答辞文を読んで頂き、「生徒のために」を念頭に私達の後輩を指導して頂きたいものだ、と思う。

相当余裕をもって依頼されたこの原稿は、多忙と怠惰のくり返しで、締切予告の日に手をつけ、それも今年の酷暑に日中を避け三晩の徹夜で漸く形にした次第。いわばやつつけ仕事である。その間ここに記載した以外に多くの生徒達、先生方、又は野球部に関連してお世話になつた人々等のことが走馬灯の如く胸中を去来し、今ふり返ればより重きを欠いていることが多い結果となつた。また、私の18年間の北野在職の半ばにも達していない。私が公の職を退いて数年たち、何でも言える時が来たら今度はこちらからお願いしてでも投稿したい。編集者よ、今回はこれにてご放免あれ。

終り

にしだいさお先生略歴

大正9年大阪市生まれ。

昭和12年北野中学卒(50回)。大高を経て昭和18年9月阪大理学部物理学科卒。同時に海軍に入り、昭和19年海軍兵学校教官。同20年9月復員(海軍技術大尉)。同21年阪大副手、同22年関西学院理工専門部講師、同24年北野高校教諭、同42年布施高校教頭、同47年大阪府教育委員会主幹、指導第一課長を経て、同50年池田高校校長。現在、大阪貿易学院高校校長。

想 想

題字 阿部俊一先生

再 就 職

和田 慎三 (60期 明光証券社長)

北野中学60期の同期会が7月18日に東京で、7月19日に大阪で開かれた。どちらにも出席した。東京は人数が少ないが、大阪は盛況で70人余が集まった。

われわれの年代は昭和4年生まれが中心であるから昨年満55才になった人が多く、自営、医者、教授などを除いては多くの人が転職して名刺が変わっている。私も昨年6月住友銀行を退任して明光証券へ転職した。久しぶりに会う人もあり、お互いに名刺を交換し乍ら新しい職場について話が弾む。

同期生の無遠慮から「なんや株屋に成り下ったか」と言う人もいる。昨日まで「銀行も高利貸やないか」と言われていたので、成り下ったか成り上ったかどちらかわからない。

そうかと思うと「あなたは銀行に最後まで残る人と思っていました」と言う人。これには何と挨拶して良いかわからない。少くともお祝いのつもりではなく、お悔みを言ってくれたのか。それはどちらでも良い。

いづれにしても第二の人生をみのり多いものにしようかとは自分の心の持ち様で決まることで他人が決めることではない。

新しい仕事に入ってしみじみ感じることは物心についてから55才まで、世間様に対してどんなつき合いをして来たかという事である。今の私の商売は全国の個人も法人も全部がお客様の対象になるわけであるから、どれだけ多くの人の御恩を戴くかが勝敗の岐れ目である。

こんな話を聞いた。銀行時代行内でも行外でも威張り散らしていた人が、第二の職場で営業に出たが、銀行の先輩、後輩からも相手にされず、従来親しくして貰っていたと思う銀行の得意先からもソッポを向かれると言った按配で、ついにノイローゼになったという事である。

自分が銀行時代どうしていたか。まあ今のところ親元も銀行時代のお客様も大切にしてくれるので、業界全体が好調なことから相俟って業績はまずまずである。

* *

ところが困ることが沢山ある。住友銀行と明光証券の知名度の違いである。昔の知っている人に頼み事があり電話をする。

「〇〇専務をお願いします。明光証券の和田です」と交換手に告げる。

「メイコーショーケン。どんな字を書きますか」

「明治の明。それに光る、明るく光ると書きます」

「ハハア、明治の明。明るく光るですか。秘書に取次ぎます」

「〇〇専務の秘書ですが、どなた様でしょうか」
また同じ事を繰返す。交換手に詳しく説明してももう一度聞き返される。どうも接遇の訓練が行き届いていない。耳馴れないので余計そうかも知れない。(我慢して反省する)

その後がまた困る。「どんな御用件でしょうか」
「専務がおられたら前から存じ上げているのですぐわかるのですが」

「ハア。それでもどんな御用件ですか」
「一寸お願いしたい事があり、専務に直接お話ししたいのですが」

しばらく相談している様子。かなり経ってから「専務は唯今来客中ですので、あと15分してから電話して下さい」(こちらから電話しますではなくて、電話して下さい、である)

15分後電話したら、その間に秘書が専務に話してこちらの業性が判明したのであろう。漸く話が通じた。このごろ変な売込みが多いからもっともな事であろう。(我慢反省)

第二。お客様回りをしている途中で、よく知っている会社の前を通ったので立寄った。

名刺を出して、
「アポイントメントを致しておりませんが社長さんに一寸御挨拶に上りました」

取次ぎの男性、名刺をジロジロみて、
「社長は唯今外出しておりますが」(このフロアーの奥の方に社長は居て何か仕事をしている) この会社は証券会社が来ればすべて「断れ」と社命が出ているのではないと思われる。

「御不在なら仕方ありませんが、代りの方に御挨拶しておきます」

「ハハア、どんな御用ですか」
「新しく社長に就任しましたので御挨拶に参ったのです」「ハア」

と言っている中に先方の社長が顔をあげて目が会った。

「あ。和田さん、いらっしゃい。その節は大変お世話になりました。どうぞどうぞお上り下さい」

受付の男性は気の毒な限り。(アポイントをしておくべきであった。反省)

第三。さる大企業。挨拶回りに財務部長さんを訪ねる。不在。担当者も担当役員も不在。そこで銀行時代からよく知っているので社長さんの在否を問う。ここの秘書は気が利いていてすぐ社長に取次ぐ。早速会ってくれた。その時「一度麻雀をしましょう」と言う話。

「承知しました。当方で設営しますから、後刻日取りの打合せをしましょう。財務部を通じて連絡させて戴きます」と。

翌日こちらの都合の良い日を3カ日程決めて連絡する。財務部長不在で代りの人。

「明光証券の社長の和田ですが、昨日お邪魔して、皆さんお留守でしたので、社長さんに御挨拶した時に麻雀

の話が出ました。3カ日の中、社長の日程を合わせて下さい」

「えっ。社長と麻雀？」(自社の社長と明光証券の社長が麻雀するのがどうも解せないらしい)

「当社の社長は〇〇と言いますが、間違いありませんか」

「はい。その〇〇社長と約束したものですから」

「ハハハ。よく聞いておきます」と言う次第。

何ともしどかしい苦労もあるが、銀行をやめてからも相変らず御厚誼を戴き、銀行の時以上に御支援を下さる方もあって、本当に有難い毎日を送っている。

懐球の記

丹羽 弘 (70期 志学塾々長)

戦後、高校野球(昔の中等野球)が再開されて今年は40回目に当るそうだ。そのせいか新聞の取り上げ方も例年以上に大きい。野球部OBとしてはうれしいことであるが、その取り扱い方をみると少々過熱気味のように思われる。

今年も万博球場まで予選を観に行った。なつかしい顔を見えるのも楽しみで、毎年、時間の許すかぎり球場へ足を運ぶ。球場が近づくとき息が詰まり、自分が試合に出るわけでもないのに、スコアボードや、バックネットが見えてくると、気のせいか気持ちも高ぶってくる。草野球に毛の生えた程度の試合でこうなるのだから、母校というのは不思議というか、ありがたいものだ。ネット裏に陣取ると、ユニホームを着ていない部員が多数応援していた。今や部員は30人を超えるらしい。我々の頃は、予選が終るとメンバーをそろえるのに苦労したものだ。勉強の厳しさを考えると、野球をやりたいくても二の足をふむ者が多かったからだ。男子の入学は昔と同じようににむずかしいのに、入部希望者は年々、増加しているらしい。

戦後40年、高校野球もすっかり変わってしまった。先日朝日新聞の特集号を読んでいて驚いた。S21年~36年の16年間に代表校になったのは、浪商が8回、残りの8回は全て公立校なのである。2年に一度の割合で公立校が優勝していたとは、今では到底信じられない。ベスト4(準決勝)に残る割合も公立の方が高く64%にもなる。我が北野高校も決勝戦進出を含めて四度も準決勝に駒を進めている。春の選抜大会は甲子園の常連で、全国優勝もしている。この頃が公立校の全盛時代であり、北野高校野球部も期待された時代であった。ところが、37年以降は完全に私立、それもPL学園中心の時代に入る。公立校はベスト4にも殆ど残れず、その率はわずか16%である。優勝にいたっては57年の春日丘ただ一校のみである。一方、私学の雄、浪商の凋落も著しい。ベスト4に陥り残ることはあっても、代表になったのは、あの牛島、香川がバッテリーを組んだ54年のただ一度だけである。今やPL学園が、大阪はおろか全国の中心校にさえなっている。

勢力分布が変わっただけではない。技術、戦術、設備、用具など全て目をみはる変わりようだ。それは、甲子園への道がますます厳しくなったことも表わしている。甲子園への道は、一人の好投手、一人の好打者だけで歩き通すことは不可能になった。名ドライバーと道をよく知った道案内人が、お金をかけて整備された車に乗ってのみ甲子園まで走れるようである。ときに、野球の神様が気まぐれ?をおこし、ヒッチハイクをする若者を拾って甲子園まで運んでくれることはあっても、夏の代表校はだいたい実力校に落ちつくようである。

技術の向上、戦術の多様化は、一人の監督、経験の浅いコーチだけでは指導しきれなくなってしまう。私立、公立を問わず、OBの協力はもちろん、出身校などの枠をこえてさ指導者を求める時代になった。昔も、浪商のような強力チームがあった。しかし、全く歯が立たないような感じは受けなかった。体格が大きく、素質のある有力選手の集団ではあったが、少しはつけ込めるような気がしたものだ。しかし、最近の強力チームは、自滅することはあっても、一人の好投手を持つだけの弱小チームにつけ込まれることはほとんどなくなった。好選手を集めた有名校は、選手を鍛え、管理し、データを集め、その厚い選手層で欠点の少ないチームを作りあげているからだ。

用具の面で革命的なことは、金属バットの登場であろう。木のバットは高価で、折れやすいという理由で48年以来使用されている。年と共に経済的なメリットは無視されて?より飛ぶバットが求められ、メーカーもそれに応えるべく改良が重ねられた。近代工業の高い技術が本格的にバット製造に導入された。工業技術は歯止めがないと目的にむかってまっしぐらに進むものである。その結果が今年に入ってからバット騒動であろう。折れやすくなったことから、その安全性が問題にされているが、安全面で問題になるのは、むしろ打球が速くなり、投手や三塁手が危険にさらされていることであろう。専用球場を持たない大多数の学校では、他のクラブ員も同じ状態におかれている。自然のものであった木のバットは、その能力も自然に決まっていた。ボールに厳しい規格と検査があるように、人工物である金属バットも、それなりに人間が適切な基準を決めておくべきものを、木製バットとの違いに気がつかず、規格もそれに準じていたのではないだろうか。金属バットの採用と筋力トレーニングの普及は、高校野球を一変させたようだ。投打高で野球が大雑把になったとみるより、防禦をより固め、攻撃を強化する、より高いレベルの野球になったとみるべきであろう。強力チームと並のチームの差がまた大きくなったことでもある。金属音を発してボールをはじき返す金属バットは、打者にとっては魔法のバットであっても、投手にとっては悪魔のバットである。投手に課せられるものは一段と大きくなった。少なくとも、正確にコントロールされたスピードボールと二種類以上の変化球が要求される。コントロールのないストレートでは失点をくい止められない。二年余でこれらの課題を解くには

かなりの素質と経験をつんだ選手が入学してこないともむずかしい。必然的に、二、三人の投手に分担させることになる。しかし、二、三人のタイプの異った投手を育てることは、エースを一人育てるよりもむずかしいかも知れない。制約の多い公立校が、私立に対抗するのは至難の技であるが、何が起こるかわからないのも、また、高校野球である。

母校の健闘を折って、来年もまた応援に行くつもりだ。

栗石鉦吉著「いつまでも——山」

(茗溪堂刊・1400円)

「ぼたり、さんの山歩き」

田上泰昭

著者自身、「私は五十年近く教師をやって来た」という。その労により叙職の栄にも輝いた。しかし本書は、その所謂「教師」栗石鉦吉によって書かれたものではない。「人気のない溪流や草原に慰めを求めて、さまよい歩く心」に始まり、「いつまでも——山」に情熱を失わぬアルビニスト「ぼたり」さんの文章である。自らに語り、仲間に語る飾りつきのない句々は、その山歩きの後姿にも似ている。あるいは高度なフィクションを内包する小説をすら志向した、もう一つの、文学青年的一面もうかがえる。「他に本業を持ち」、自ら「無用の用」とする、「山に登ること自体が目的であって、他にそれを利用しない」、しかも「非常に危険度の高い、時には命がけの趣味」に「愛着を抱き続けているのは、我ながら不思議な気がする」、その内なるものを語ろうとしているのである。さればこそ、より本質的な「教師」の手になる一冊の随想集といわねばならぬ。

本書は第一部「山旅ノートから」と第二部「いつまでも——山」の二部からなる。それらの内容は折にふれて、生徒・学生及び卒業生らには語られてきたことである。「(しかし彼らは)まさか私がこの年で、風雨の中を三千mの山頂を目指したり、行き暮れて雪中に露営したり、そんな無理な登山をしているなどとは想像もしないであろう。」と「序に代えて」述べている。これは75歳になってなお登り続ける「ぼたり、さんの秘かな自負である。それをいう前に著者は、若い頃の山への情熱が失われてゆく三つの関門として、第1に社会に出て、勤めと両立しないため、第2に妻子に足を引っ張られるため、第3に社会的・経済的に安定し、余裕ができたときには体力が伴わなくなっているため、という深田久弥のことばを肯定した上で、「それにしても、自分のような、何事にも長続きしない人間が、この三つの関門を通り抜けて、今でも山に愛着を抱き続けているのは、我ながら不思議な気がする。」と述懐してのことである。

栗石先生の山歩きは「単独行」をその本質とする。学生の山岳部、社会人の山岳会などにも属さぬ、「いわば無籍者」の登山者である。教師になってからも、「行く学校には必ず前からの顧問教師がいて私は一度も顧問になることもなかったし、又なろうとも思わなかった。だ

「塗料六稜会」発足の御案内

塗料関連産業に従事する北野中学・高校の卒業生相互の親睦をはかるため、同窓会的なものを作ろうとの機運が高まっておりましたが、去る5月17日、有志が集まり、会の運営その他を取り決め、この度「塗料六稜会」を発足させることになりました。

会長には、コニシ鋼社長・小西信一郎氏(昭15卒)が任され、現在約20数名の仲間が加入しております。

塗料関連産業は意外に裾野が広く、多くの知見、情報が寄せられる場でもありますので、この分野で活躍中の卒業生の皆様方多数のご参加をお待ちしております。

なお会の連絡先は、幹事のイサム塗料(株)北村眞一氏(昭26卒)電話06-308-1368(会社) 湯浅(昭39卒)

から生徒を連れて行く場合、山岳部以外の生徒か、山岳部の生徒でも私個人として連れていった。その頃私も若く、山小屋やテントの中で彼らと遊んだり冗談を言い合ったり笑ったりしたのだから、これも山友だちといっていよいのかも知れない。」といっているように、山の仲間が決していなかったわけではない、(いわば陽気な単独行)登山者だったのである。自ら「無謀であった」と反省する旧制浪高尋常科在職中の生徒らとの登山も「個人として」誘ったものであった。そして今日、「なぜ生徒を誘ったのか」と自問する。「教室ではとうてい得られない、血の通った体験を得ること」や「自分に出来なかったことを将来彼らが達成して欲しい、というあの親心にも似た教師独得の心理が働いたこと」などを挙げる。「だが、ただそれだけの理由ではない。はっきりした理由が見付からないほど私は山を愛していたのだといってしまうそれまでだが、それでも本当の理由にはならないようである。」結局、「事故を予測しなかった。予測しようとしなかった」ということが「正直なところだったかも知れない」というのである。

著者の教師生活50年間に於ける生徒らとの登山に関する叙述は全296頁中の22頁に過ぎない。「生徒の危難 三篇」のみであり、北野在職中のことなど皆無である。だからといって、所謂「教師」によって書かれたものではないというのではない。むしろ、さればこそ、より本質的な「教師」の手になる書であると私はいいたいのである。「ぼたり、さんの山歩きはまだ当分続きそうだ。

モンテカルロの裁判所

海を見下ろす小高い丘の上、南欧の強い陽ざしを避けて樹かげに立つと、碧い海・無数のヨット、その向うに象牙色の華麗なカジノが見える。

ここ丘の上は、モンテカルロの官庁街で、その一隅にひっそりと、しかし肩をいからせるように小さな裁判所が立っている。

人影もなく、白い道路だけがいにまぶしい昼の街は狂声の渦巻く夜の姿と極めて対照的であった。

絵と文 鎌倉利行(60期 大阪弁護士会々員)

鎮魂

昭和20年 学校防衛中に散華した 故 中島要昌君の墓参記

原 寿 治

昭和60年 6月15日。

62期の有志井上耕一、川本新一郎、佐藤功、山本次郎、小生に、特に御協力願った63期徳永行平氏以上6名が漸く大淀の中島家墓前に集う機会を得た。六機の星霧既に遠く、年々の追憶の集いにのみ歎を尽くす此の頃であるが、その度に新たにするのは、空襲下、非情の敵弾のため思いを千載に残して校庭に散華された故中島要昌君、池田彰宏君への哀惜である。恨み深き昭和20年6月15日、六甲の峯をも焦すと見えた炎の中を、学校防衛の当務を共にして、未来ある魂の卒然と去るのに愕き、また硝煙たゆとう淀の河辺の茶屋に列して親しき顔容の終焉に涙し、幼き心にも慟哭の二字を刻まれた級友として、両君追悼の機会を待つこと久しいものがあつた。

故 池田彰宏君の御遺族は？

有志諸君の尽力にも拘らず、池田彰宏君の御遺族の消息に接し得ず、追善墓参の願いが叶えられない。中島君の霊に見える事が出来た今、焦慮の思いである。御近況の一端でもお知らせを頂ける方があれば深謝に堪えず、諸兄姉の御協力を切にお願い申し上げます。(06)345-3751 六二会事務局

中島家の菩提寺「光徳寺」は、天才画家佐伯祐三先輩の生家であり墓所である。故中島君の令妹・山下永子様、伯父上・辻忠男様（共に六機63期、40期であられる）、伯母上様姉上様と共に心からの追福を捧げた。追憶の一刻は爾来40年の思わざる世の移りを忘れさせ、伯父上様の発声になる校歌の斉唱に、行きし人を想い残れる自らを省みて、心雪がれる思いであつた。

再び御縁に結ばれた御一家の皆様の時時までもお健やかな御様子に、永く中島君の面影を偲べて頂きたい。

大学合格者一覧表

(60. 4. 25 現在)

国 立	男	女	計	大 阪 外 大	2 部	1	1	東 日 本 学 国 大	1	1	神 戸 女 子 大	25	25	在 校 生 計	1	1
北 海 道 大	1	1	2	公 立	男	女	計	法 政 大	1	1	松 蔭 女 学 院	4	4	大 阪 大 学	1	1
東 北 大	3		3	福 島 県 立 大	1	1	1	明 治 大	2	2	親 和 女 子 大	1	1	大 阪 大 学	1	1
筑 波 大	2	1	3	高 崎 経 済 大	1	1	1	早 稲 田 大	45	6	兵 庫 医 科 大	1	2	市 立 住 吉 高 校	1	1
千 葉 大	1		1	都 留 文 科 大	1	1	1	松 本 農 科 大	1	1	武 庫 川 女 大	15	18	市 立 住 吉 高 校	1	1
東 京 大	11		11	京 都 市 芸 大	1	1	1	岐 阜 大	1	1	帝 塚 山 大	2	2	市 立 住 吉 高 校	1	1
東 京 工 大	1		1	京 都 府 立 大	2	2	2	中 京 大	1	1	天 理 大	1	1	大 阪 大 学	1	1
一 橋 大	1	1	2	大 阪 女 子 大	4	4	4	北 陸 大	1	1	合 計	25	25	合 計	7	7
横 浜 国 大	1		1	大 阪 市 立 大	6	9	15	大 谷 大	7	7	短 大	2	2	大 阪 ガ ス	1	1
富 山 大	1		1	大 阪 府 立 大	16	3	19	京 都 外 大	4	4	京 大 医 科 短 大	2	2	大 阪 大 学	1	1
富 山 医 薬 大	1		1	神 戸 市 外 大	1	1	1	京 都 産 業 大	3	1	大 阪 医 科 短 大	3	3	大 阪 大 学	1	1
金 沢 大	1		1	神 戸 商 科 大	1	1	2	京 都 女 子 大	23	23	大 阪 府 立 短 大	2	2	合 計	2	2
信 州 大	1		1	新 潟 県 立 大	5	1	6	京 都 薬 大	1	13	京 都 府 立 女 子 大	3	3	58年(一昨年) 在 校 生 計	95	26
静 岡 大	1		1	合 計	31	22	53	同 志 社 大	72	20	平 谷 院 短 大	1	1	国 立	22	34
滋 賀 大	1		1	大 阪 市 立 大	2	2	2	同 志 社 女 子 大	19	19	龍 谷 短 大	1	1	公 立	22	34
滋 賀 医 大	1		1	私 立	男	女	計	ノートルダム女大	2	2	京 都 女 子 短 大	12	12	私 立	28	31
京 都 大	54	11	65	青 山 学 院 大	1	1	1	立 命 館 大	12	11	金 蘭 短 大	4	4	短 大	39	10
京 都 教 育 大	1	1	2	聖 隷 聖 大	1	1	1	龍 谷 大	2	2	大 阪 女 子 短 大	1	1	大 阪 大 学	1	1
京 都 工 機 大	1	1	2	昭 和 大	1	1	1	大 阪 医 科 大	6	1	大 阪 大 学	1	1	大 阪 大 学	1	1
大 阪 大	47	19	66	大 妻 女 子 大	1	1	1	大 阪 工 業 大	2	1	関 西 外 語 短 大	6	6	大 阪 大 学	2	2
大 阪 外 大	5	5	10	学 習 院 大	1	1	2	大 阪 商 科 大	1	1	新 潟 山 学 院 短 大	1	1	合 計	300	500
大 阪 教 育 大	6	12	18	慶 応 義 塾 大	31	5	36	大 阪 商 科 女 大	4	4	帝 塚 山 短 大	2	2	59年(昨年) 在 校 生 計	100	200
神 戸 大	34	15	49	国 際 基 礎 大	1	1	2	大 阪 電 通 大	1	1	キリスト教短大	1	1	国 立	100	200
神 戸 商 船 大	1		1	産 業 医 科 大	2	2	2	大 阪 薬 大	2	7	常 盤 金 短 大	1	1	公 立	15	35
京 東 教 育 大	1	1	2	芝 浦 工 大	1	1	1	大 谷 女 子 大	8	8	大 谷 大 短 大	1	1	私 立	107	305
京 東 女 子 大	9	9	18	常 盤 大	1	1	1	追 手 門 学 院 大	3	3	松 蔭 女 短 大	1	1	短 大	54	10
和 歌 山 大	1	1	2	上 智 大	9	1	10	関 西 大	29	33	武 庫 川 女 短 大	4	4	大 阪 大 学	1	1
鳥 取 大	1	1	2	尊 徳 大	1	1	1	関 西 外 大	3	2	神 戸 女 子 短 大	1	1	大 阪 大 学	7	7
岡 山 大	3	1	4	創 価 大	1	1	1	関 西 外 大	2	5	神 戸 山 手 女 短 大	1	1	大 阪 大 学	4	4
広 島 大	2	2	4	中 央 大	3	3	3	近 畿 大	3	6	学 習 院 女 短 大	1	1	合 計	35	50
山 口 大	2	2	4	東 海 大	1	1	1	摂 南 大	2	2	聖 母 女 院 短 大	1	1	60年(本年) 在 校 生 計	100	200
徳 島 大	3	3	6	東 京 医 科 大	1	1	1	相 模 大	2	2	東 邦 大 医 学 短 大	1	1	国 立	100	200
香 川 大	1	1	2	東 京 聖 恵 会 医 大	1	1	1	西 天 王 寺 短 大	1	1	合 計	52	52	公 立	19	34
高 知 医 科 大	2	2	4	東 京 女 子 大	1	1	1	関 西 学 院 大	34	22	聖 母 女 院 大	1	1	私 立	405	613
九 州 大	3	3	6	東 京 電 機 大	1	1	1	甲 南 大	2	11	防 衛 大	2	2	短 大	41	11
佐 賀 大	1	1	2	東 京 理 科 大	10	3	13	甲 南 女 子 大	12	12	防 衛 医 大	5	1	大 阪 大 学	9	9
長 崎 大	3	3	6	東 洋 大	1	1	1	神 戸 学 院 大	1	3	航 空 大	1	1	大 阪 大 学	7	7
鹿 児 島 大	1	1	2	日 本 大	2	2	2	神 戸 女 子 大	14	14	合 計	8	1	大 阪 大 学	2	2
合 計	194	83	277	日 本 女 子 大	1	1	1	神 戸 女 子 大	4	4	専 修 学 校	男	女	計	300	600

六稜同窓会だより

六 稜 昭 三 会

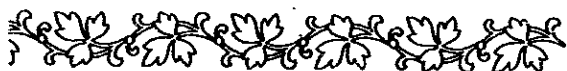
本年6月の春季六稜昭三会総会は、藤本元次郎君の格別なる取計により大阪市港湾局広報船「水都丸」借切にて約1時間大阪湾を船上より見学しました。産業・経済と市民生活の発展に寄与する貿易商港としての南港、或は物流の拠点として新しい流通センターを整備してある大阪港を大阪市に居住し乍らも平素殆ど見学する機会もなく而も海上より施設を見ることが出来たのは誠に興味深いものがありました。引続き北区中之島朝日新聞大阪本社工場見学をも実施しました。生僧同期生上野淳一社主（六稜同窓会々長）は北海道に公務出張であったため、同社でお会いすることが出来なかったのは大変残念でしたが、秘書明石氏の事前連絡よろしきにより、担当者との適切な案内で夕刊締切直前（午後3時ノ切）の輪転機による印刷、折込、荷造、発送までの機械操作をスベリ込みで見学出来ました。当日の社会見学は大変有意義なものでした、毎回の見学会には30名以上の参加者がありました。

因に6月1日の見学会には垣本光男君（徳島市）、後藤五郎君（一宮市）、森本佐一君（敦賀市）、青山祐一君（東京都杉並区）が夫々遠路参加下され、新井清君ご夫妻並にお孫さん（2名）、村井浩君ご夫妻も共に出席下さった事は誠に有難く感謝して居ります。

会員の消息につきましては、児玉市太郎君がこの度叙勲され勲四等瑞宝章（昭60・4・29）を受章、又中島善太郎君（昭59・3・3）、米田薫君（昭60・1・14）、椎名義寿君（昭60・1・24）及び岡田喜雄君ご内室美津様（昭60・4・2）病没されました。改めてご報告を申し上げますと共にご冥福をお祈りします。

最後に昭和58年秋より事業を開始して居りました旧北野中学校跡記念碑建立も去る4月20日除幕式を行い以って無事茲に完了、就きましては多大なるご支援により立派な記念碑が建ちました事に対し実行委員（会計監事・末吉）として心より厚くお礼のご挨拶を申し上げます。

末吉 健 記（昭60・7・5）



宮本貞夫氏（48回）より故安藤清二先生（T5年～S16年、英語）御夫妻を撮影した8ミリフィルムを同窓会に御寄贈いただきました。（無声、2分半、御自宅にて昭和48年12月8日撮影のもの）御利用下さい。詳細は事務局まで。

六 稜 四 五 会

（昭和59年度）

昭和7年卒、六稜四五会の昭和59年度総会を開催しましたので、その次第を下記の通りご報告します。

11月18日（田）から19日にかけて、文字通り錦秋の箕面公園のお山荘において水鳥喜平先生を含み計24名が相集い楽しい一時を過しました。

昔流でいう古稀を大部分の人が迎え、亦迎えるわけですが、さすがが集まった面々は、お酒、カラオケ、民謡等若い人顔負けのハッスル振りで、秋の夜長が未だ時間が足りないくらいでした。

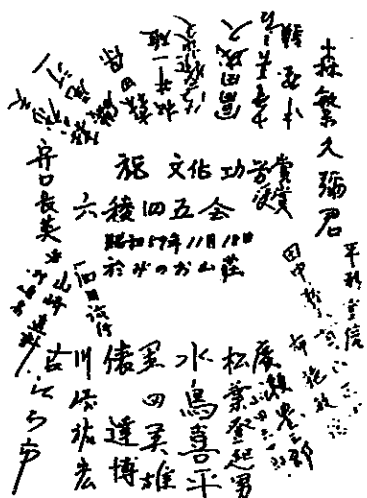
たまたま先般同期の森繁久弥君が文化功労賞受賞、大槻光武君が勲三等受賞の榮に浴されましたので、寄せ書きをしました。（年度幹事 森山康夫・磯尾汀一）

（昭和60年度）

昭和60年度総会には新緑に包まれた泉南の丘陵地にある「かいづか山荘」で、5月12・13両日開催した。前回から6ヶ月しか経っておらず、又連休明けの何処とも多端の時期でもあり、出席者数が危ぶまれたが、当日は恩師水鳥先生のご臨席を得、会員も東京から松葉君、中京から川崎・高野両君の出席があり、会員14名が集まった。午後6時30分開会、開会挨拶のあと、総会直前の4月29日、春の叙勲受章者が発表され、会員中より、兼田晴重君（元ホンジュラス大使）が勲二等瑞宝章、高山捷一君（元防衛庁技術開発官）が勲三等瑞宝章を受賞されたが、出席者は慶びの意を籠め、寄せ書きし、之を両君に贈ることを決議した。続いて昨年12月逝去された清水明・安井良治両君のご冥福を祈り、黙祷を捧げた。次に4月20日、北野の校舎跡に建立された記念碑の除幕式の模様を概要報告した。なお古江君が私共の先輩である白井次郎氏（白井松器械会長）が撮られた当日の写真と式辞の録音テープを預って来られ、之を披露された。以上で報告事項を終え、水鳥先生のご発声にて乾杯、懇親会に移った。席上、水鳥先生のお持ちいただいた北野中学歌詞集により、全員合唱、応援歌では花園ラグビー場での対天中戦を想い起こし、又、女学校教え歌では、青春を取り戻した心地である。最後に校歌を全員斉唱、午後9時、閉会した。

翌日は、午前9時半、山荘を出発、密柑の花の香りが漂う中、小鳥の囀りを聞き、野趣なお残る道を、野莓を口にしながら、水間観音で知られる水間寺まで1時間の散策を楽しんだ。参拝後、水間鉄道水間駅より乗車、帰阪、お互の健康を念じ、再会を約し、正午前、なんば駅で解散した。

（記 有山・芦村）



東西で卒業五十周年を祝う熟年四八会

大正の始め生れの学友や

老いかこちつ、集へば若やぐ

〔Ⅰ〕 関西四八会は3月6日大阪天満橋、キャッスルホテル3階「錦城閣」で行われた。会場の設定並に料理は、辻学園副園長の島田栄三君が取りまとめ、32名が出席した。祝福に参加された水鳥喜平先生(82才)は先輩森繁久弥氏から贈られた赤いブレザーを着用熱弁をふるわれ、会場は田村功君の軽妙な司会で盛り上がり、たのしい会合であった。

〔Ⅱ〕 東京四八会は例年通り4月8日東京都赤坂茜荘で行われ関西からも3名が参加し、合計29名が集合した。千葉から大谷渥志郎先生が参加されたが、お元気に圧倒された感じである。今年は中村典美幹事と旧厚生省援護局長実本博次君の世話で、例年と趣向を変えて日本式の会合となり、地の利もあり遅く迄話題は尽きなかった。

〔Ⅲ〕 東西合同の旅修行

この後四八会は杉山大助君が世話人となり東京一大阪の中間になる「浜松駅」に6月15日集合館山寺温泉に一泊、浜名湖中心の楽しい旅行を計画しており20名以上の参加が予想される。(4月20日 記録 平 浩行)



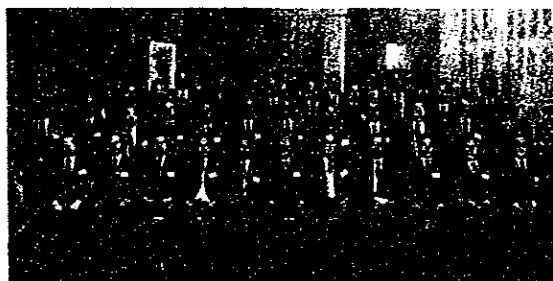
吉良 龍夫君(49期)紫綬褒賞を受く

六稜四九会は、会員吉良龍夫君(滋賀県琵琶湖研究所長、元大阪市大教授・植物生態学)が昨年8月、世界湖沼会議開催に活躍、昨秋、紫綬褒賞を受賞されたお祝いを兼ねて同君の話を聞く会を12月10日(月)午後5時から7時30分まで、大阪綿業クラブ(大阪市東区備後町3-8、綿業会館内)で開催した。参集者は土屋憲三先生をはじめ名古屋在住会員の広瀬輝夫君や在阪会員ら10余人。

話はまず昨年8月、滋賀県大津市に世界の学者たちが集まって開かれた第1回世界湖沼会議の苦労話にはじまり、琵琶湖汚染には工業用水と生活用水によるものが考えられ、工業用水は規制されてだんだん改善されているが、周辺住宅からの生活用水による汚染は困ったもので、水のきれいな琵琶湖にするためには、そのいずれにも気をつけねばならない。— など約1時間に及んだが、中でも「学生時代登山が好きで、滋賀県の山を歩いた時、村々では山から引いた水を上水道として利用し、汚れた水は村中をゆるやかに流れて自然に浄化され、湖へ流していたのを見たが、近ごろは生活様式が変わり、洗剤などで汚染され、浄化しないままの水を湖へ流している」という話は考えさせられた。

そのあと、土屋先生がお祝いの言葉を述べられ、先生の音頭でみんなが乾杯、夕食を共にしつつ昔を懐かしんだ。(室原秀一 49期)

六稜58期同窓会報告

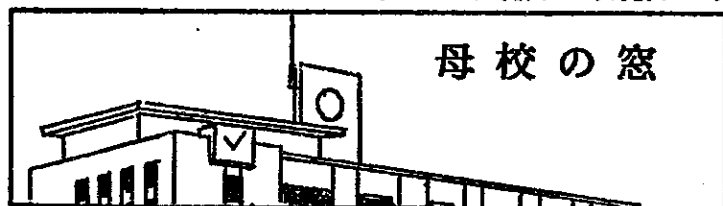


今回は、次回40周年記念六稜同窓会開催準備打ち合せもかねて、昭和59年11月22日“大阪倶楽部”で恒例(毎年開催)の六稜58期同窓会を午後6時半から開いた。

なつかしい顔や珍しい顔が三々五々続々と集ってくる。地元大阪近郊勢東京その他各地から相集うもの41名、また恩師梅垣、大田、前川、原の諸先生も来臨された。

幹事、恩師のあいさつ、連絡事項をすませ、写真家関野修君による全員記念写真撮影、宴会に移る。飲みながら或は味を楽しみながら懐旧の情に耽ける。一息ついたところで自己紹介をかねて一言づつの近況報告、中学時代の思い出。それが、また、昨日今日の様によみがえってくるのも不思議である。ところで、ハガキをみると“定年”、“病氣”が目立って、年を物語るような感が深い。

次年度幹事(西脇、中小路、塚崎ら)を選出、校歌斉唱、万歳三唱で閉会。今回お世話下さった清水・上小沢外村・松丸・安田・渡辺勇幹事に深謝する。(記 松永)



職員異動

村田 義人先生 (S58~60) 校長
 原田 高好先生 (S59~60) 教頭
 植村 繁一先生 (S26~60) 国語
 河原 剛先生 (S27~60) 英語
 田中 博先生 (S28~60) 英語
 田村 光一先生 (S52~59) 政経
 寺田 英夫先生 (S47~60) 世界史
 中村 和穂先生 (S55~60) 理科
 平松 穂子先生 (S55~60) 国語
 中谷 孝子先生 (S35~60) 養護
 神長信之介さん (S25~60) 技師
 堀之内幸則さん (S32~60) 技師
 の各先生方が、御退職、御転任になりました。(田村先生は昨年9月10日付、他の先生方は3月31日付)
 村田前校長先生は東大阪短期大学に、原田先生は野崎高校校長に、植村先生、河原先生、田中先生、中谷先生、神長さん、堀之内さんは御退職されました。なお、植村、河原、田中、堀之内の各先生方には引き続きお世話になります。(特別嘱託・特別講師) 田村先生は貝塚南高校教頭に、寺田先生は池田北高校に、中村先生は和歌山県立田辺高校に、平松先生は吹田高校に転出されました。
 今後の御活躍をお祈り申し上げます。また、村田校長先生、原田教頭先生の後任として、松下邦夫校長先生を北千里高校校長から、友田健次教頭先生を茨木東高校教頭から、また次の新しい先生方を、4月1日付をもって本校にお迎えいたしました。
 佐々木利昌先生 (牧野高校) 世界史
 中井 雄三先生 (市岡高校) 化学
 矢作 哲朗先生 (布施高校) 化学
 土屋 順一先生 (大正高校) 英語
 内藤 伸彦先生 (西寝屋川) 美術
 山口 朗子先生 (吹田高校) 国語
 安藤 哲先生 (新任) 政経
 田中 英子先生 (箕面東高校) 養護
 辻中 栄雄さん (新任) 技師

御不幸

三谷 正先生 (T14~S3 英語)
 前島儀一郎先生 (S9~S15 英語)
 長谷川寛治先生 (S15~S18
 S23~S54 地理)
 上阪喜代治先生 (S14~S22 英語)
 以上の先生方が亡くなられました。
 心からご冥福をお祈り申し上げます。
 御寄付をいただきました
 62回(昭24年中学・昭25年高校卒)
 より、卒業35周年記念に10万円相当
 を植樹いただきました。

クラブだより

60. 8. 1 現在

【女子バスケットボール】

公式戦 大阪高校総体 対池田、負。
 公立高校大会 対茨木、負。対北千里、豊島、摂津、芥川、勝。対豊中、負。新人戦 対箕面自由、勝。対東豊中、負。全国総体府予選 対鳥飼、負。
 定期戦 対天王寺、勝。春の遠征、対膳所1勝1分、対大津商業、負。

【男子バレー】

公式戦 大阪高校総体 北野2-0 追手門、0-2 鳥飼、2-0 刀根山。府立高大会 0-2 桜塚、1-2 池田、2-0 高槻北。秋期部別大会、0-2 寝屋川、2-1 三島、0-2 春日丘。春の高校バレー第2次予選 0-2 城東工。春期部別大会 0-2 桜塚、2-0 羽曳野、0-2 此花。全国総体予選 2-0 山本、0-2 太成。
 定期戦 59年度 2-0 天王寺、60年度 2-0 天王寺。

【女子バレー】

定期戦 大阪高校総体 (リーグ選) 北野0-2 高槻南、1-2 芥川、2-0 高槻北。府立高大会 1-2 摂津、2-0 西淀川。秋季部別大会 2-0 泉陽、2-0 高槻、1-2 登美丘(2部2位)。春の高校バレー第二次予選 0-2 日新。春期部別大会 0-2 市岡商、0-2 香里兵、0-2 西寝屋川(3部降格)。全国高校総体 0-2 桜塚。

【硬式庭球】

定期戦 大阪高校総体 大鐘卓也・渡辺洋・高嶋公治 予選決勝進出、寺北晃・東秀明・中川伸一 予選準決勝進出。ダブルス 大鐘・竹村和久ペア 本選2回戦進出 新人学校対抗 Aチーム (大鐘・渡辺・竹村・高嶋) 予選決勝進出 春季大会 大鐘・渡辺、予選決勝進出。
 定期戦 対市岡 (男子7勝2敗、女子3勝3敗) 10勝5敗、勝。

【女子テニス】

公式戦 大阪高校総体 上本末夏・浅野美子・屋敷洋見 本選2回戦進出。斉藤るり子本選進出。浅野・屋敷ペア予選決勝進出。新人学校対抗 Aチーム (上本・浅野・屋敷・室・斉藤) 予選準決勝進出。春季大会 屋敷本戦3回戦進出、浅野本戦2回戦進出 斉藤・吉田有香美ペア予選決勝進出。春季大会 団体の部 北野2-1 泉陽、3-0 高津、2-1 豊中、1-2 八尾(ベスト16)。

【卓球】

公式戦 大阪高校総体 (男)北野3-1 豊中、3-1 箕面自由、3-1 豊島、(女)3-1 箕面、3-2 箕面東、(中央大会)(男)3-1 明星、0-3 興国、(女)1-3 日新。全国総体府予選 (男)3-1 豊中、3-1 渋谷、3-1 東豊中、(女)3-2 附属池田、3-2 豊島、(中央大会)(男)0-3 天王寺、(女)2-3 和泉。
 定期戦 9-6 市岡(秋)、9-6 市岡(春)、6-10 天王寺。
 六稜杯(S59/11)優勝(男)本田啓司(S55卒)、(女)小原理恵(S56卒)。(S60/3) (男)本田啓司、(女)田中恵美子(2年生)。

【山 岳】

公式戦 昭和59年度全国高校総体 (女子)府代表。全国第19位。
本年度府予選 男子16位、女子2位。
本年予定 夏山(7/30~8/3)、
塩川-三伏峠-塩見岳-農鳥岳-北
岳-広河原。弥山(9/21~23)、比
良山(10/26~27)、国見山(11/16
~17)。

【サッカー】

公式戦 全国大会府予選 北野0-
4三島。大阪冬季大会 0-2北陽。
春季大会 2回戦2-2(PK2-
3)対茨木、負。
定期戦 0-5膳所。0-1天王寺。

【陸上競技】

公式戦 近畿インターハイ 走高跳
12位、吉田洋(1m93)。大阪室内陸
上競技会 女子4×1600mR5位、(下
園・中村・津田・加山)、3000m4位
安井順子、800m優勝生田研一。豊能
駅伝 優勝(福重・尾高・上田・谷・
池本・生田)。

【合気道部】

夏期合宿は7月下旬、4泊5日の日
程で、岡部先生、木下氏の御指導、
OB諸氏の御協力で無事終了。今年
度は7/30~8/3の予定。文化祭は、
4月よりの朝、昼、放課後の猛練習
の成果を出さんものと熱気あふれる
演武。直前部員全体がややバテ気味
なのが心配されたが、気力充実して、
満場の拍手を受けて、無事終了。今
年は新入生が多数入部。今後の発展
の期待大なり。

【オーケストラ】

六校音楽祭、文化祭(「運命」)に出
演。六校祭を本校にて開催の為準備
に追われています。パートも二管編
成にそろい、練習に励んでいます。

【コーラス】

六校音楽祭、府高校音楽会、文化祭
に出演。12人の新入生を加えて、11
月に本校にて行う六校祭に向けて一
同練習に励んでいます。

【ハンドボール】

公式戦 秋季総体 (男)北野21-5
東豊中、5-17北陽。(女)19-2洪
谷、8-21蕪英。新人戦 (男)17-
20豊中、(女)8-14福島女子。春季
総体 (男)13-16桜宮、(女)5-7
東淀川。(敗者復活)(男)24-6箕面
学園、24-15桜塚、19-16市岡、10
-25桜宮。(女)11-9千里、9-16
箕面。

【剣 道】

公式戦 大阪高校総体(団体)(男)
対布施工、枚方西、此花工、勝。対
PL、負。(女)対唐津、負。新人大
会(団)(男)対箕面自由、摂津、摂
津、勝。対茨木、負。(女)対池田、
勝。対芥川、負。(中央大会)(男)
対貝塚南、勝。対関西第一、負。
(女)対大阪女子学園、勝。対八尾、
負。全国総体府予選 (男)対鳥飼、
三島、勝。対大商大附、負。(女)不
戦勝、対芥川、不戦勝。対南寝屋川
負。(個人)(男)西村匡達、準優勝。
笹川顕子、準々決勝進出。
定期戦 S59・60年対天王寺戦、男
女、団体、勝。三校戦 男女団体、
勝、個人(男)中野、(女)笹川優勝。
対大手前、勝。

【柔 道】

公式戦 大阪高校総体 (5人)対島
上、勝。対和泉工、負。新人北地区
大会 (5人)対金光第一、北千里、
島上、摂津、勝。対大阪負。準優勝。
北地区学年別 (3人)2年 A対鳥
飼、勝。対浪商、負。B対島上、負。
1年 A対鳥飼、勝。対関大一、負。
B対浪商、負。大阪北地区大会 対
浪商、負。
定期戦 天高戦 秋期、点取勝(6
-2)勝抜勝(4人残り)・春期、
点取勝(6-0)勝抜勝(4人残り)
大村杯 (5人)対高津、茨木、負。
京大招待 (5人)対大手前、負。対
大淀、勝。12校大会 (5人)対宮口
北、負。対星陵、勝。

【美術】

全大阪高校美術工芸展、第一プロッ
ク展、本校文化祭出品。

【男子バスケットボール】

公式戦 大阪高校総体 北野73-27
大阪学院、51-81茨木西。新人大会
65-35豊島、53-88阿武野 全国総
体府予選 60-72高津。
定期戦 四校定期 53-55灘、47-
94神戸。天高戦 62-56天王寺。

【水 泳】

公式戦 大阪高校対抗 男800m繼、
6位(教實・荒巻・内田・吉住)。
府立高校合同記録会 男400m10位
(荒巻・井上・内田・吉住)、男200
個メ6位吉住和之、女200個メ5位
柴岡えみ、女100自3位築山明子・
7位柴岡、女400混繼3位(柴岡・蒲
田・築本・大山)、女400繼5位(同
上、逆順)。女子総合2位。
大阪高校総体中央大会 女100背8位
・女200背8位、田子島屋良子。

【器械体操】

公式戦 大阪高校総体 2部男子個
人総合5位。新人戦 男子種目別あ
ん馬3位。

連絡

名簿作成の為下記まで現住所・卒業
年次・近況等をお知らせ下さい。
〒532 大阪市淀川区加島1-51-1
-502 大坪あゆみ宛

【写真部】

連絡

名簿を作成しますので下記まで、御
住所・卒業年度等をお知らせ下さい。
連絡先 〒532 大阪市淀川区新北野
2丁目5番13号 北野高等学校内写
真部まで。

【書 道】

第一ブロック高校書道展、全大阪高
校展、大阪芸術祭(檜本尚美)出品。
全国学生書道展-知事賞を初め特別
賞を多数受賞。文化祭は米芈をテー
マに展示。講堂の席書も力作を発表。

【囲碁・将棋】

公式戦 全国高校将棋選手権府大会
(団体)対堺工業、泉陽、布施工、
高槻、勝。対高津、負。準優勝。
府高校将棋大会 対堺東、島上、桃
山学院A、勝。準々決勝対布施工員。

プロフィール 「王道」を心ゆくままに 面につかれて

見市泰男君 (81期)



屈指の進学名門校として知られる大阪府立北野高校。クラブ活動も活発で、放課後のグラウンドは野球部やラグビー部などがひしめきあって練習を繰り広げている。

その一角でバスケット部のOB、見市泰男さん(34)は週3回、女子チームのコーチを務める。就任して9

年目。府大会で毎年1、2回戦の敗退組だったチームは昨年、ベスト8に食い込んだ。顧問の教師や部員たちの信頼はますます厚い。

見市さんのなりわいは能面打ち。「泰春」の号を持つ。実家近くの大阪市西淀川区内のアパートの三畳間が見市さんのアトリエである。古い面(おもて)を参考に自分で粘土をこね、イメージを作りあげたうえで彫りにかかる。材料のひのきを粗彫りし、六段階の工程を経て彩色するまで延べ百時間。構想を練る時間も合わせると1カ月に1作が限度だ。当然収入は多くなく、「嫁さんをもらってもとても食わせていける自信はない」と苦笑する。

北野高校に入るまでの見市さんは典型的な優等生だった。淀川区内の小学校に越境入学し、有名公立中学から北野に合格したのが18年前。しかしそのころから受験勉強に対する執着がなくなっていく。「一流大学、一流企業に入ることにどんな意味があるのか」「自分がこれだと思うことに打ち込みたい」——考えあぐねているうちに気が付いたらバスケットと、絵の世界にのめり込んでいた。成績は急転直下し、「卒業できたのが不思議なくらい」ばく然とあこがれた東京芸大の受験にも二度失敗した。絵ばかり描いて学科の勉強はほとんどしていなかったのだから、無理もなかった。

その見市さんが能面のもつ魔力にとりつかれたのは三浪目の秋。大阪在住の能面打ち、石倉耕春さん(50)主宰の能面教室に通い始めてからのことだ。「能面には時空を超えた何かがある」ためらわずに石倉さんの弟子になった。

能面打ちという職業を持つ人は全国で7、8人。見市さんは12年たっても最年少だ。一度はエリートコースをめざした見市さんに学歴に対するコンプレックスが全くないと言えうそになる。たかが能面というさめた意識も、まだどこかにある。しかし能面を彫っている時の充実感、満足感は他の何事にも替え難い。「室町時代の般若の面からは、命がけで彫ったという迫力が伝わってくる。自分も一生に一度でいい、人を心底からゆさぶるような面を作りたい」

——見市さんはつくづくそう思う。

(昭和59年7月6日 日本経済新聞夕刊より転載)

【ラグビー】

公式戦 全国大会府予選 3回戦、北野4-34興国。
近畿大会府予選 2回戦42-0西野田工、6-9牧野。
府春季大会 33-0枚方、37-0刀根山、28-0関西大倉、6-26淀工。
定期戦 21-0洛北、31-4天王寺。

【野 球】

公式戦 秋季大会 北野13-6東商、2-6八尾。春季大会 不戦勝、0-1和泉工。府大会 不戦勝、4-6商大付。
定期戦 2-11浪商、0-5天王寺、1-5浪商。

【文 芸】

北野文学第45号発行。文化祭では滝沢馬琴「南総里見八犬伝」を研究。

【演 劇】

府高校演劇研究大会、文化祭出演。2年生を柱に充実した活動を行っていますが、技術(特に音響効果・舞台装置)を身につけるのが課題。

【生物研究】

今春「LUPÉ23号」発行。先輩方の御寄稿をお待ちしております。(来春4月、次号発行の予定。)

編 集 後 記

○ 奇しくも創立記念日に行われた北野中学記念碑の除幕式に在校生11名とともに御招待いただいたが、その折に生徒が北野中学校歌を間違わぬかと気がかりだった。「紅顔の子弟千有余」等と現在ではよみかえていっているからである。
○ 編集子は昭和40年に入学したが、生徒数はこの年が一つのピークであり、現在よりやや少く1650名であった。そこでこの「千有余」にやや違和感を持ったのだが、今後増学級になり、生徒数が2000名に達しようとした時の彼等はどうか感じるだろうか。名簿整理の折に、ふと卒業時の生徒数の増減を追ってみると、これも確かに一つの北野史の一面を形造っていると思えてくる。妄言多謝。(阪田)